

和

研
ケイ

第13回 若手研究者賞

自然科学研究機構

LIVE
配信



自然科学研究機構公式 YouTube チャンネル
@nationalinstitutesofnatura5133

ハイブリッド開催

会場

岡崎コンファレンスセンター
〒444-0864 岡崎市明大寺町字伝馬8-1

受賞記念講演

2024

7

24

水

13:00 ▶ 17:20

セイ
研

NINS
National Institutes of Natural Sciences
自然科学研究機構

シヤク
研

若手研究者賞

受賞記念講演

自然科学研究機構 若手研究者賞について

自然科学研究機構では、新しい自然科学分野の創成に熱心に取り組み成果をあげた優秀な若手研究者を表彰することを目的として「自然科学研究機構若手研究者賞」を平成23年度に創設いたしました。

この度、厳正なる審査の上、若手研究者賞の第13回受賞者が決定しましたので、授賞式及び受賞者による記念講演を開催いたします。

目次 Contents

p2

太田 雅人 OTA Masato

アインシュタイン“最初”の宿題

NIFS
核融合科学
研究所

p4

中島 王彦 NAKAJIMA Kimihiko

宇宙の夜明けを探る：
130億年以前の星々の誕生から始まる酸素の進化

NAOJ
国立天文台

p6

森下 侑哉 MORISHITA Yuya

核融合プラズマのデジタルツイン制御への挑戦

NIFS
KYOTO
UNIVERSITY
京都大学

p8

下村 拓史 SHIMOMURA Takushi

光で探りあてるイオンチャネル分子の隠しコマンド

NIPS
生理学研究所

p10

小杉 貴洋 KOSUGI Takahiro

生命38億年の進化を超える挑戦
～生き物の中で働いている分子タンパク質をデザインする～

IMS
分子科学
研究所

p12

四方 明格 SHIKATA Hiromasa

細胞の中を覗いて読み解く植物のかたち

NIBB
基礎生物学
研究所

p14

福井 暁彦 FUKUI Akihiko

「系外地球」のシルエットを捉える
～地上望遠鏡で地球サイズの太陽系外惑星の観測を実現～

NAOJ
The University
of
TOKYO
東京大学

太田 雅人

OTA Masato

核融合科学研究所
助教

研究テーマ

相対論的プラズマに関する実験的研究

Experimental research on relativistic plasma physics

専門分野

プラズマ物理学

略 歴

- 2013年 滝高等学校 卒業
- 2017年 広島大学 理学部卒業
- 2019年 大阪大学大学院 理学研究科修士課程修了
- 2022年 大阪大学大学院 理学研究科博士課程修了
- 2022年 博士(理学)の学位取得(大阪大学)
- 2022年 大阪大学レーザー科学研究所 特任研究員
- 2023年 核融合科学研究所 助教 現在に至る

主な受賞歴

- 2020年 プラズマ・核融合学会 第14回 貢献賞
- 2020年 プラズマ・核融合学会 第37回 年会若手優秀発表賞
- 2021年 The 10th Advanced Lasers and Photon Sources Conference Student Award
- 2021年 日本物理学会 領域2 学生優秀発表賞
- 2022年 日本赤外線学会 優秀発表賞
- 2023年 大阪大学 近藤賞
- 2023年 一般社団法人アジア太平洋物理学会連合プラズマ物理部門 U30 Scientist and Student Award



最近ハマっていること、 趣味

趣味は珈琲です。周りからは、物理よりも、珈琲の研究者なのではと言われるます。珈琲の粉に湯を注ぐ時に、写真のような泡が出てくるのですが、見ていると気持ちが悪くなります。



講演テーマ

アインシュタイン“最初”の宿題

超高速計測を用いた相対性理論の可視化

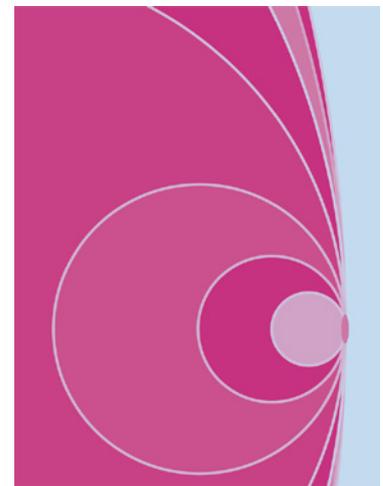
皆さんは、アインシュタインが発表した、相対性理論に関する最初の論文をご存知でしょうか？

それは1905年に発表されたもので、タイトルは、“運動物体の電気力学について”です。この論文の中で、時間の遅れや長さの収縮といった、私たちの常識を覆す理論が提唱されたのでした。その後、様々な現象において相対性理論が正しいことが理論的・実験的に確かめられています。また、相対性理論は、GPSや原子力発電等、我々の現代生活の一部にも活用されています。しかし、皮肉なことに、上述した論文のタイトル（運動物体の電気力学について）が指し示す、「電磁場の収縮」という現象の直接的な検証は行われていませんでした。つまり、アインシュタイン“最初”の宿題は一世紀以上にも亘って残され続けていたわけです。

本講演では、この「電磁場の収縮」を超高速計測の手法を用いて可視化したという成果をご紹介します。相対性理論の写真をお見せしたいと思います。

自慢の一枚

こちらの画像は、今回の講演で紹介する研究成果のイラストです。友人にお願いをして作成してもらったものなのですが、成果を学術雑誌で発表した際に、こちらが下絵となって、発表した冊子の表紙絵に選んで頂くことができました (M. Ota et al., Nat. Phys. 18, 1436-1440 (2022).)。



研究者を目指したきっかけは！

中学生の頃に、本を読んで、初めて相対性理論を知りました。当時は全く内容が理解できず、物理学者というのは頭がおかしいのだろうと思いました。ただ、なぜかその時に、「相対性理論を理解する」ということを人生の目標の一つに掲げることにしました。紆余曲折はあったのですが、気づいたら、相対性理論をテーマとした物理学者になっていました。

中島 王彦

NAKAJIMA Kimihiko

国立天文台
特任助教



最近ハマっていること、
趣味

1歳の息子と2匹の猫と
一緒に遊ぶことです。

研究テーマ

可視光赤外線観測と光電離モデルを融合した
革新的な初期銀河の研究

Pioneering Study on Early Galaxies Probed by the Combination of the Optical/
Near-Infrared Observations and Photoionization Models

専門分野

銀河天文学

略歴

- 2005年 長野県松本深志高等学校 卒業
- 2009年 東京大学 理学部 卒業
- 2011年 東京大学大学院 理学系研究科修士課程修了
- 2014年 東京大学大学院 理学系研究科博士課程修了
- 2014年 博士(理学)の学位取得(東京大学)
- 2014年 スイス・ジュネーブ大学 研究員
- 2016年 ドイツ・欧州南天文台 日本学術振興会海外特別研究員
- 2018年 デンマーク・ニールス・ボーア研究所 フェロー
- 2020年 国立天文台 特任助教

主な受賞歴

- 2021年 日本天文学会 研究奨励賞(個人受賞)

講演テーマ

宇宙の夜明けを探る

130億年以前の星々の誕生から始まる酸素の進化

私たちを含め、この宇宙に存在する物質は、元素を基本単位として構成されています。138億年前にビッグバンによって誕生した直後には、水素、ヘリウム、微量のリチウムといった軽い元素しかこの宇宙には存在しませんでした。では、現在私たちの周りに存在する重要な重い元素は、いつ、どのようにして作られてきたのでしょうか?その答えを探る最も直接的な方法は、遠方の宇宙を観測することです。光の速度が有限であるため、遠方宇宙から到達している光は過去の宇宙の情報を運んでいます。したがって、より遠方の宇宙の観測は、より過去の宇宙の姿を見ることに他ならず、元素合成の始まりを明らかにする上で重要です。しかし、遠方宇宙の観測には様々な困難が伴い、研究は容易ではありません。

本講演では、ジェイムズ・ウェッブ宇宙望遠鏡による最新の観測データに基づく私たちの研究によって明らかとなった元素の進化、特に酸素に着目してお話します。

自慢の一枚

2023年11月に、今回の講演テーマでもある『初期の宇宙で急激に酸素が増加した痕跡を捉える』という成果を世界に先駆けて挙げることができました。この結果は記者会見・プレスリリースを通じてNHKや主要新聞にも取り上げられ、国内外へ広く報道してもらいました。写真は、記者会見時の様子です。

(© 東京大学宇宙線研究所)



研究者を目指したきっかけは!

小学生の時、ハール・ボップ彗星と呼ばれる大きな彗星がやってきて、それを親兄弟と毎日のように見て楽しんでいました。次に同じ彗星が戻ってくるのは2,500年後と教えられショックを受けつつも、そのスケールの大きさから宇宙への興味がどんどんと湧き、自分でも宇宙の謎を解き明かす研究をしたいと子供ながらに思うようになりました。自分の心が踊る瞬間・興味を大切にしてもらいたいと思っています。

森下 侑哉

MORISHITA Yuya

京都大学大学院
助教

(核融合科学研究所の共同利用研究者)



最近ハマっていること、 趣味

趣味は、家の近くの鴨川を散歩することです。学生の頃はほとんど毎日鴨川に会いに行っていました。最近は週に一回くらいになっています。色んなことがどうでもよくなる感じが心地いいです。

研究テーマ

核融合プラズマに対する
適応予測制御システムの開発

Development of adaptive predictive control system for fusion plasma

専門分野

核融合プラズマ

略歴

- 2014年 岡山県立倉敷青陵高等学校 卒業
- 2018年 京都大学 工学部卒業
- 2020年 京都大学大学院 工学研究科修士課程修了
- 2023年 京都大学大学院 工学研究科博士課程修了
- 2023年 博士(工学)の学位取得(京都大学)
- 2023年 現職

主な受賞歴

- 2019年 第36回プラズマ・核融合学会年会 若手学会発表賞
- 2020年 日本原子力学会フェロー賞
- 2020年 令和2年度京都大学工学研究科馬詰研究奨励賞
- 2020年 第16回日本原子力学会関西支部賞(奨励賞)
- 2021年 日本物理学会学生優秀発表賞(領域2)
- 2022年 令和4年度京都大学工学研究科吉田研究奨励賞
- 2022年 第14回核融合エネルギー連合講演会、若手優秀発表賞

講演テーマ

核融合プラズマのデジタルツイン制御への挑戦

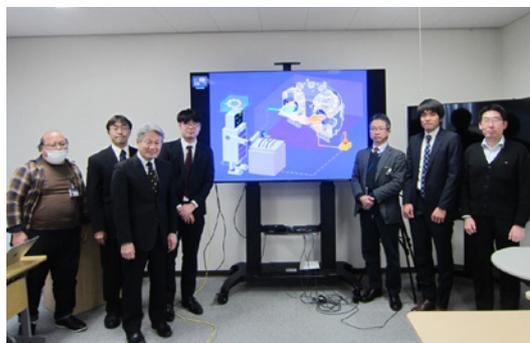
計算機上の核融合プラズマを使って実体を制御する

核融合発電を実現するための方式として、プラズマ状態（イオンと電子がバラバラに運動している状態）となった燃料（水素）を磁場に閉じ込め加熱することで核融合反応を生じさせる方式が有力視されています。この方式では、長い時間にわたって一億度を超える超高温のプラズマを維持・制御することが必要になります。しかしながら、核融合プラズマの中には様々な現象が存在し、それらが互いに影響し合うことで全体の挙動が非常に複雑になります。そのため、核融合プラズマの挙動を制御するためには、多くの要素を考慮した高度な予測制御技術が必要になります。

こうした核融合プラズマの制御を実現するために、私たちはコンピュータ上に核融合プラズマを再現し、それに基づいて制御を行うデジタルツイン制御システムの開発に挑戦しています。この講演では、制御システムの開発に関する今までの成果および苦労についてお話しします。

自慢の一枚

現在、核融合科学研究所の大型ヘリカル装置（LHD）に実装しているデジタルツイン制御システムは、多くの高度な技術が組み合わさってできています。これは、それぞれの専門家の協力があって初めて実現できるものです。この研究は、もともと一人でシミュレーションの研究を行っていた私に、チームでの研究の楽しさや本物の核融合プラズマに触れる機会を与えてくれました。写真は、開発した制御システムの初適用時の成果をプレスリリース発表した時のもので、一部の共同研究者と撮った集合写真です。



研究者を目指したきっかけは！

科学に興味を持ったのは、小さい頃に見た映画Back to the Futureの影響が大きいと思います。実際に研究者になろうと思ったのは、大学院生になってからでした。今の研究テーマの種になった研究を始めて、ゼロからコードを作ることや問題解決のために悩むこと自体が楽しく感じ、博士進学を決めました。何か一つのことを四六時中考え続けていられるというのも研究職の醍醐味だと思っています。

下村 拓史

SHIMOMURA Takushi

生理学研究所
助教

研究テーマ

Two-pore channelにおけるホスホイノシチドと膜電位による制御機構についての研究

Investigation of the regulatory mechanism by phosphoinositide and membrane voltage in Two-pore channels

専門分野

分子生理学

略 歴

- 2001年 私立土佐高等学校 卒業
- 2006年 京都大学理学部 卒業
- 2008年 京都大学大学院 理学研究科修士課程修了
- 2011年 京都大学大学院 理学研究科博士課程修了
- 2011年 博士(理学)の学位取得(京都大学)
- 2011年 京都大学 特定研究員
- 2012年 名古屋大学 特定研究員
- 2015年 生理学研究所 助教

主な受賞歴

- 2009年 第82回 日本生化学会大会 優秀プレゼンテーション賞
- 2019年 第10回 日本生理学会 入澤宏・彩記念若手研究奨励賞



最近ハマっていること、趣味

流し見程度ですが、NHKの大河ドラマシリーズはここ数年続けて視聴しています。もともと歴史は好きで、昨年の「どうする家康」は岡崎市にゆかりがあることもあって興味を呼び起こされ、気づいたらWikipediaで将軍家の情報などをひたすら漁っていました。小学生の娘が最近歴史に興味が出てきたようなので、史跡などを一緒に巡れたらいいなと思っています。

講演テーマ

光で探りあてるイオンチャネル分子の隠しコマンド

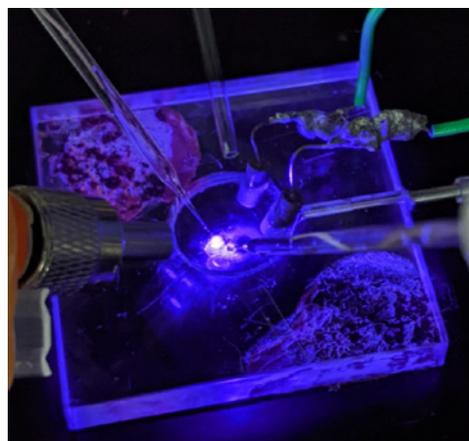
脳の電気信号を生み出すタンパク質の精巧なカタチと動き

わたしたちの脳の情報処理は、無数の神経細胞が互いに連結してネットワークを形成し、その間で電気信号をやりとりすることで実現されています。この電気信号を生み出す基本素子が、神経細胞膜上に存在し、特定のイオン(ナトリウム、カリウム、カルシウムなど)を通す機能を持つ「イオンチャネル」とよばれるナノメートルサイズの小さな孔です。イオンチャネルはタンパク質でできた分子機械であり、細菌からヒトに至るまでほぼすべての生物に存在し、様々なかたちの電気信号を生み出しています。

本講演では、この精巧な分子機械がどのようなかたちをし、どのように機能しているのかについてお話します。また、目では到底見ることのできないイオンチャネルの極微な動きを、光を使ってとらえる方法についても紹介したいと思います。

自慢の一枚

光依存性チャネルを発現させたカエル卵母細胞に光照射を行い、電流応答を見ている際の写真です。電気生理学実験中はずっと電流の波形データとにらめっこする(奥深い)地味なものですが、これは多少見栄えがする写真かなと思います。光を当てた瞬間に電流が増減するのを見ると、見えないけれどちゃんとチャネル分子がそこにいて動いていることを実感します。



研究者を目指したきっかけは!

きっかけははっきりしませんが、小学生のころに科学図鑑を読みこむのが楽しかった記憶があります。その後、高校の授業で生物学に興味を持ち、大学の専門講義を聴講して引き込まれた、という流れでした。自分の中でつい時間を忘れて没頭してしまうことはなんだろう?ということ意識してみると、やりたいことや将来の夢につながるかもしれません。

小杉 貴洋

KOSUGI Takahiro

分子科学研究所
助教

研究テーマ

生命科学研究に資する
タンパク質複合体制御技術の開発
Control of Protein Complexes for Life Science Research

専門分野

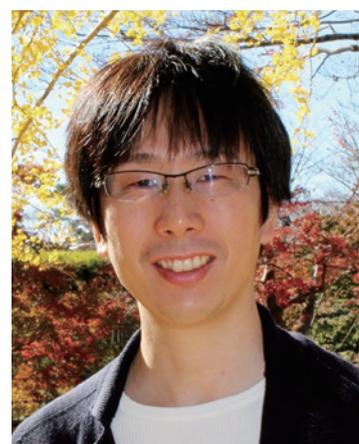
タンパク質設計

略 歴

2000年 静岡県立浜松北高等学校 卒業
2005年 京都大学薬学部 卒業
2007年 京都大学大学院 薬学研究科修士課程修了
2012年 京都大学大学院 理学研究科博士課程修了
2012年 博士(理学)の学位取得(京都大学)
2012年 米国ワシントン大学 博士研究員
2015年 自然科学研究機構分子科学研究所 助教

主な受賞歴

2013年 第41回構造活性相関シンポジウム 優秀発表賞
「計算機による理想的な構造を持つ機能タンパク質のデノボデザイン」
2014年 第8回分子科学討論会 優秀講演賞
「機能を持った理想的な蛋白質の理論設計」
2021年 2021年度 日本蛋白質科学会 若手奨励賞優秀賞
「失われた機能を甦らせることで回転分子モーター
V₁-ATPaseにアロステリック部位を設計する」



最近ハマっていること、 趣味

いろいろな生き物(イモリ、メダカ、アサガオなど)の世話をしています。毎日成長していく姿を見ているのが楽しみです。写真はまだ泳げないイモリの子供です。



講演テーマ

生命38億年の進化を超える挑戦

生き物の中で働いている分子タンパク質をデザインする

生命はおよそ38億年という長い年月をかけて進化してきました。その過程で、生命の主要な成分であり、その活動において様々な重要な働きを担っている分子であるタンパク質も、多様な機能を獲得してきました。私は、生命が作ることのなかったタンパク質分子を生み出すことや、生命が作り出した素晴らしい機能を持ったタンパク質分子を改造することで、より良いタンパク質を創り出すことを目指して研究を行なっています。タンパク質は20種類のアミノ酸が繋がった高分子であり、一般的にどの種類のアミノ酸がどのような様な順番で並ぶのか(アミノ酸配列)が決まると、それに応じて特定の形に折りたたまり特定の機能を発揮します。いま地球上にいる生命が持つタンパク質は、長い進化を経て、現在のアミノ酸配列となりました。では、我々はどうやってアミノ酸の種類と順番を選べば良いのでしょうか?自身の研究結果を紹介しながらお話しできたらと思います。

自慢の一枚

コンピューター(左)を使ってデザインしたタンパク質を、大腸菌(右)や酵母に作ってもらい、様々な測定を行なってその形や機能を確認しています。思った通りのものができていると、自分が考えていることが正しかったことになり、とても嬉しいです。また、新しく創ったものは、世の中に新たな可能性をもたらすものであり、もっともっと色々なことができるようになるのではと思ってワクワクします。



研究者を目指したきっかけは!

小さい頃から「なぜだろう?どうしてだろう?」とよく考えていた気がします。そして、我が子も「なぜ?どうして?」と問いかけてきます。新しいことを知りたいという気持ちは多くの人が持っている自然な欲求であり、きっと私はただそれに従った結果として研究者になったのだと思います。自分の欲求に従って生きてみるのも良いかもしれません。

四方 明格

SHIKATA Hiromasa

基礎生物学研究所
助教

研究テーマ

植物において細胞極性が
形成・維持される仕組みの解明

Molecular mechanisms of polarity establishment and maintenance in plant cells

専門分野

植物分子細胞生物学

略 歴

- 2002年 東京都立八王子東高等学校 卒業
- 2007年 東京理科大学 理工学部 卒業
- 2009年 東京理科大学大学院 理工学研究科 修士課程修了
- 2012年 九州大学大学院 生物資源環境科学府 博士後期課程修了
- 2012年 博士(農学)の学位取得(九州大学)
- 2012年 九州大学 農学研究院 学術研究員
- 2014年 ミュンヘン工科大学 博士研究員
(日本学術振興会 海外特別研究員・特別研究員PD)
- 2017年 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 博士研究員
(日本学術振興会特別研究員PD)
- 2018年 科学技術振興機さきがけ研究者(光操作領域)
- 2018年 名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 招へい教員
- 2019年 基礎生物学研究所 助教

主な受賞歴

- 2011年 日本学術振興会岡田学術創成シンポジウム
阿蘇フロンティアサミット ベストポスター賞
- 2021年 新学術領域研究「植物構造オプト」若手の会 ベストポスター賞
- 2023年 自然科学研究機構 基礎生物学研究所 NIBB若手研究者賞



最近ハマっていること、 趣味

家でメダカの飼育とベランダ家庭菜園を楽しんでいます。息抜きというだけでなく、実験室以外で生き物を見ることで色々と気づきがあります。

講演テーマ

細胞の中を覗いて読み解く植物のかたち

植物はどのように重力を感じるか

わたしたちヒトや植物の体をつくりだしている細胞、その1つ1つが何かしらの役割をもっていると考えられています。細胞の中を覗くと、その複雑さに驚かされますが、一見して複雑な中にも、細胞小器官や様々な生体分子の配置や動きには規則性があることがわかってきます。わたしたちは、植物を研究材料として、これらの規則性からそれぞれの細胞のもつ役割を知り、そしてそれがどのようにして植物のかたちへと反映されるのかを調べています。

陸上で生活する植物は、天に向かって茎や葉を広げ、地中に向かって根を伸ばしますが、これは植物が重力を感じて茎葉や根を成長させた結果です。本講演では、細胞の中を覗いて明らかにした、この仕組みを中心にお話したいと思います。

自慢の一枚

研究留学時にクリスマスパーティーで樽ビールの開栓を任された時の一枚です。ビールで有名なドイツでもミュンヘンは特に有名な所ですが、イベントで木樽のビールが出てくることがあります。手に持った木槌で蛇口を樽に叩き込むのですが、このあと蛇口を破壊する大失敗をして、辺り一面ビールだらけにしてしまいました。いまでは良い思い出です。



研究者を目指したきっかけは!

物心ついた時には、(なぜか) 科学者になりたいという夢をもっていました。身近にそういった職業の人はいませんでしたが、種から植物を育てたり、虫を見たり、理科の教育番組を真似て実験したり、モノを分解したりするのが好きな幼少時代でした。初めは漠然とした目標でも、疑問に思ったことをそのままにせず調べたり、色々な人と話す中で次第に形になっていくと思います。

福井 暁彦

FUKUI Akihiko

東京大学大学院
特任助教

(国立天文台の共同利用研究者)



最近ハマっていること、 趣味

安くて美味しいワインを探ること。週末、安くて美味しいワインを飲みながらネット配信番組を観ること。悩みの種は、大抵飲み過ぎてしまい、翌日体調がすぐれないことです。

研究テーマ

高精度多色測光の実現および同手法を用いた地球サイズの系外惑星の発見

Establishment of High-precision Multiband Photometry and Discoveries of Earth-sized Exoplanets

専門分野

太陽系外惑星

略歴

- 2002年 京都府立綾部高等学校 卒業
- 2006年 神戸大学理学部 卒業
- 2008年 名古屋大学大学院 理学研究科修士課程 修了
- 2008年 日本学術振興会特別研究員(DC1)
- 2011年 名古屋大学大学院 理学研究科博士課程 修了
- 2011年 博士(理学)の学位取得(名古屋大学)
- 2011年 国立天文台岡山天体物理観測所 研究員
- 2018年 東京大学大学院 理学系研究科 特任助教
- 2021年 東京大学大学院 総合文化研究科附属
先進科学研究機構 特任助教

主な受賞歴

- 2008年 名古屋大学学術奨励賞

講演テーマ

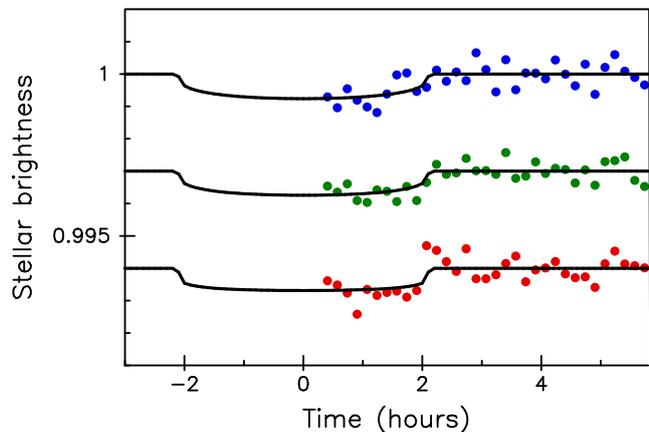
「系外地球」のシルエットを捉える

地上望遠鏡で地球サイズの太陽系外惑星の観測を実現

生命を宿す「地球」は宇宙で特別な存在なのでしょうか？ NASAが2009年に打ち上げたケプラー宇宙望遠鏡は、「トランジット法」と呼ばれる惑星の食現象（いわば惑星のシルエット）を捉える手法を用いて、地球に似たサイズや温度をもつ惑星が宇宙に普遍的に存在することを明らかにしました。一方、惑星が生命を宿すためには、海洋の存在が重要と考えられています。惑星に海洋が存在しうるかどうかは、惑星のサイズや温度の条件に加えて、適度な量の大气が必要です。いま、系外惑星の大气を調べる研究が急速に進展していますが、地球のように小さな惑星がもつ大气を観測することは容易ではありません。少なくとも、太陽系からの距離が近い、主星のサイズが小さい、といった好条件が揃っている必要があります。本講演では、宇宙望遠鏡で発見された惑星候補天体の中から、地上の望遠鏡を用いて大气観測が可能な地球型惑星を探索する研究について紹介します。

自慢の一枚

我々が開発をした観測装置MuSCAT（マスカット）を用いて捉えた、ハビタブルゾーン（生命居住可能領域）に位置する地球の1.5倍のサイズの系外惑星K2-3dの「シルエット」。2016年3月、この惑星が主星の手前を横切る際に生じる主星のわずかな（0.06%）減光の検出に、地上望遠鏡で初めて成功しました。



研究者を目指したきっかけは！

「物事の本質を理解したい」という思いのもと、大学、大学院と進むうちに、いつの間にか研究者になっていました。何度か企業への就職を検討したこともありましたが、その都度、もう少し研究を続けたいという気持ちが勝り、今に至っています。

タイムテーブル Timetable

記念講演



13:00 ▶ 13:25

太田 雅人 OTA Masato

NIFS
核融合科学
研究所

アインシュタイン“最初”の宿題



13:30 ▶ 13:55

中島 王彦 NAKAJIMA Kimihiko

NAOJ
国立天文台

宇宙の夜明けを探る：
130億年以前の星々の誕生から始まる酸素の進化



14:00 ▶ 14:25

森下 侑哉 MORISHITA Yuya

KYOTO UNIVERSITY
京都大学

NIFS

(核融合科学研究所の共同利用研究者)

核融合プラズマのデジタルツイン制御への挑戦

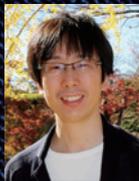


14:30 ▶ 14:55

下村 拓史 SHIMOMURA Takushi

NIPS
生理学研究所

光で探しあてるイオンチャネル分子の隠しコマンド



15:00 ▶ 15:25

小杉 貴洋 KOSUGI Takahiro

IMS
分子科学
研究所

生命38億年の進化を超える挑戦
～生き物の中で働いている分子タンパク質をデザインする～



15:30 ▶ 15:55

四方 明格 SHIKATA Hiromasa

NIBB
基礎生物学
研究所

細胞の中を覗いて読み解く植物のかたち



16:00 ▶ 16:25

福井 暁彦 FUKUI Akihiko

The University
of TOKYO
東京大学

NAOJ

(国立天文台の共同利用研究者)

「系外地球」のシルエットを捉える
～地上望遠鏡で地球サイズの太陽系外惑星の観測を実現～

※講演題目は変更になる場合があります。

研究者 トーク

16:35 ▶ 17:15

「研究者を目指した特異点」

司会者：国立天文台 上席教授 **渡部 潤一**

閉 式

17:15

閉会挨拶：自然科学研究機構 副機構長 **渡辺 芳人**

司会者：共創戦略統括本部 特任准教授 坂本 貴和子



若手研究者賞記念講演サイト

https://www.nins.jp/event/cat75/y_awards/13.html



アンケートフォーム

<https://forms.gle/zvBTZxe8zLSokNS6>

主催 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

お問合せ 第13回 自然科学研究機構若手研究者賞 事務局 TEL:03-5425-1308 FAX:03-5425-2049